

平成十八年度の課題

各事業の一体的な運営を行い、複合施設の特徴をいかし、サービスの向上につなげる。

1. 職員の育成
 ・介護予防・地域支援事業・ボランティア(ほほえみプラザサポート隊)受入れのための職員育成

・適切な個人情報の取り扱い
 ・防災意識の向上

2. 事業の一体的運営
 ・事業を横断した委員会・行事の運営

3. 地域交流の推進
 ・シニアパワーを活用し、プラザのサークル作りを推進
 ・近隣小学校・児童館等との意世代交流を計る

4. 指定管理者として区民の福祉向上のため事業の効率的運営及びサービスの更なる向上

なお、平成18年6月から19年2月までの長期間、地下1階から7階までの広範囲にわたるプラザ内壁紙等の改修工事(施工時の内装が防災基準を満たしておらず改修する一区の事業)を行うこととなり、安全を最優先に事業運営することとした。

平成十八年度概況

1. 指定管理者:平成18年度から平成20年度までの3年間、千代田区から岩本町ほほえみプラザの指定管理者として指定され、区民の福祉向上・効率的運営を重点目標に事業を開始した。 2. 再び改修工事:平成17年後半にほほえみプラザの地下1階から8階までの広範囲にわたり、壁紙等が竣工図面と相違することが判明し、平成18年6月から平成19年2月までの長期間にわたり改修工事を行った。そのため、短期入所は10月13日～10月19日、デイサービスは12月29日～12月30日の間、事業停止し、利用者に多大な迷惑をかけた。一方、入居施設では利用者の各居室ごとに6日間の工事期間が必要なため、施設内に仮住まいの居室を確保した。転居のために荷造り・荷解きなど身体的・精神的負担をかけた。一方、中には自分が退去したときに改修して欲しいと拒否される利用者も多かった。(この件に関しては工事施工業者より800万円の補償費があり、事業停止による遺失利益等として充当した。)このような工事による、職員への負担も大きいなか、事故・怪我もなく一旦終了した。 3. 重点目標の変更:利用者・職員の安全確保を最優先することに変更し、職員も通常業務に加えて安全第一に取り組んだ結果、事故・怪我もなく今年度文は終了した。 4. 介護予防事業開始:平成18年度から新たに開始した、介護予防・地域支援事業は利用者も増加し、6月にはそれを支える「岩本町ほほえみプラザサポート隊(ボランティア組織)」を立上げ、事業の基盤作りができた。 5. 地域密着事業:グループホーム・認知症デイサービスが、地域密着事業として区の事業となった。 6. 法人60周年記念事業:平成19年2月17日に神田地域で記念シンポジウムを開催、「神田の福祉」をテーマに神田事業所の事業開始してから今まで3年間の活動報告を行々とともに、地域の皆様が求めていることを伺った。(参加者162名) 7. マニュアルⅡの取り組み開始:年度後半から業務の標準化・情報の共有・効率化を進めるため法人SVによる業務マニュアルⅡの検討に入った。

サービス調整室	<p>1. サービスの質の向上</p> <p>①労働安全衛生委員会の館内巡視を、防災・リスク・サービスマナーの各委員会に拡大することで職員全員でチェックし、相互作用できるようになった。</p> <p>②第三者評価(12月)、法人自己サービス評価(1月)を実施。特に初めて行った自己サービス評価検討会からは、部署間の協力・検討課題があり、その中から次年度の目標を設定した。</p> <p>③苦情・要望18件。利用者家族から建物ハード面についての要望があり、区と協議のうえ改修した。</p> <p>2. 職員研修</p> <p>18年度、海外交換研修(スウェーデン、韓国)に各1名づつ派遣、また受入れを行う。</p> <p>3. 地域交流</p> <p>①6月に「ほほえみフェスタ2006」を開催。ボランティアさんへの感謝と、「ほほえみプラザサポート隊」としてボランティアを組織化。地域住民、企業ボラなど約200名の参加がある。さまざまなサポート隊(企業の研修を含む)を積極的に受入れた。</p> <p>②施設運営協議会を2回開催。苦情・事故状況などの報告をした。</p> <p>4. 経理事務</p> <p>指定管理制度導入により、セグメントが増え収支の仕分け等について、福祉会計の指導を受けながら行った。プラザ改修工事により、事業の縮小・停止期間があり収入が減少した。</p> <p>5. 請求事務</p> <p>①各事業の実績管理の精度が上がり、介護報酬請求・利用者請求業務が円滑に行えるようになった。また、請求業務を連雀と連携・協力し効率化を計った。</p>
	<p>区民施設</p> <p>区民施設は岩本町東神田地域の住民交流の拠点として知名度も上がり、稼働率も多目的ホールを中心に上がってきている。</p> <p>1. 一層の利用しやすさの実現</p> <p>利用開始時間や申し込み開始日を早める等、平成19年度に実施予定の区民施設利用者アンケートによって利用条件の見直しを行う。</p> <p>2. 稼働率の引き上げ等</p> <p>利用料収入の大部分を占める一般団体(企業を含む)は昨年度の17%増と計画し、その水準を達成した。</p> <p>なお、利用件数が全体の70%近くを占める、利用料免除扱いとなる町会等の地域団体の利用件数も、前年度比で約52%の増加であった。</p> <p>3. 駐車場</p> <p>駐車場台数30台分のうち、6台の利用実績にとどまった。</p>
健康回復支援ショートステイ	<p>18年度計画を上回る稼働率になった。(168%)寂しさからくる不安のため在宅での一人暮らしが困難、家族等の虐待によるもの、退院直後で一人暮らしに不安などの利用理由があり、区独自事業の重要性を実感した。今後更に、包括支援センターなど関係機関とも協力し事業を広報したい。千代田区事業(2室)</p>

サービス提供事業	
デイサービス	<p>定員:一般30名 認知症12名。稼働日数:308日 平均稼働率:一般82% 認知症46%</p> <p>活動に介護予防的側面を導入、健康体操の見直しや個別機能訓練を開始した。個別機能訓練に関しては以前より利用者の希望も多く大変好評であった。また要支援1・2を対象とした介護予防プログラムも6月に1人でスタートしたところ、3月末には登録者の1割にせまる伸びとなっている。その結果、利用者増につながっている。今後、機能訓練に対して職員の理解をより深める必要がある。一方、認知症デイは定員枠は増えたが利用者増とはならず、稼働率としては昨年を下回った。職員の業務が煩雑になり、同性介助をはじめとして利用者個々の希望にそえない部分もある。介護予防事業は今年度より開始したが、参加利用者、対象となる利用者が少なかったこと、PR不足などもあり停滞気味であった。</p>
シヨールテイ	<p>定員:20名 稼働日数:358日 平均稼働率:96.2%</p> <p>18年度は介護職員の約半数が新任職員に入れ替わり、部署全体の介護技術・間接援助技術の向上が最重要課題であった。年間を通じて部署内でもOJTを活用した研修・勉強会の開催など取り組んできた。しかしながら基礎的な技術の習得にいたっていない部分もあり、次年度への継続課題となる。年度途中改修工事のためサービス提供を一時中止し、利用者・家族に迷惑をかけてしまったが、各居宅事業所と連携を取ることで、スムーズなサービス提供の再開につながった。年間を通じて各チーム担当(食事・入浴・排泄・活動)が活発に動くことで、部署内のレベルアップをはかった。</p>
グループホーム	<p>定員:9名 稼働率:98.3%</p> <p>事業開始から3年が経過し、入居者の状況に変化が見られてきた。介護度は、17年度は平均2.3、18年度は2.6である。数字的には大きな変動ではないが、入居者個々では、移動手段であったり、食事や入浴、排泄など日常の基本的なことに変化が出てきた。介護を要する状態になってきたこともあり、職員の認知症高齢者へケアの知識だけでなく、介護技術・知識の向上にも努めてきたが、十分な生活支援が行えなかった部分も多い。個別援助計画は、ご利用者の意思を尊重して、安全で快適な日々を送れる支援を念頭に作成されたが、それに基づいた支援や援助方法の統一は十分とは言えなかった。やはり、最優先されることは安全で快適な生活であるので、次年度へも、ご利用者個々を尊重した援助計画を作成し、全職員が統一したケアが実施していくことが課題である。</p>
ケアハウス	<p>定員:20名 稼働率:92.0%</p> <p>2人室が未入居となり、稼働率は92.0%。壁紙改修工事は入居者の意思を尊重し、計7室実施し、8室が未実施。H18年度は、入居者に様々な状態変化が出てきており、家事援助や通院援助等が必要になるケースが増えている。また、部屋や浴室での転倒による骨折や、状態変化による入院が4件、入院にならないまでも、転倒による圧迫骨折も2件あった。再転倒が考えられ、常時援助が必要なケースでは、3階ショートステイ入所・デイサービスでの入浴・ヘルパー援助・通院援助等のサービスを組み合わせることで、安全を確保することが出来た。基本的には食事・入浴以外は個々の生活をしている為、職員の目に触れない部分で自立度が低下してきている入居者が増えている。要支援・要介護者については、内部・外部の関連する事業所との情報交換・連絡相談を随時行い、連携を図った。また、必要と思われる入居者へ予防事業への参加を促し、予防に努めるよう働きかけた。地域との交流は、恒例になっている活動も増え、社会参加への良いきっかけになってきている。</p>
看護	<p>利用者及び職員の健康管理および異常の早期発見に努め医療情報の収集をおこなった。関係部署との連携につとめた。(デイサービスショートステイグループホーム ケアハウス)医療機関への連絡救急対応 ケアマネ及び家族への連絡対応</p> <p>感染症予防として、職員の毎月の検便検査、インフルエンザ予防接種の実施(11月)デイサービス ショート利用者への伝達啓蒙。手洗いうがいの重要性を施設内で徹底した。(研修開催)</p> <p>生活看護の面においては介護予防への関わりでデイサービス ケアハウスへの口腔ケアを歯科衛生士にて行った。</p> <p>在宅サービス利用者及び家族に状態の説明必要な助言指導を行った。</p>
食事	<p>喫食状況ノートや嗜好調査の結果を反映し、ケアハウスでの選択食の試みや丼の日等を取り入れた。また、敬老の日や正月等の行事食では形のあるペースト食など普段とは異なる食事の演出も行い好評を得た。</p> <p>かんだ連雀との連携についてはレシポの統一や、職員交換研修を随時行った。</p> <p>年間平均栄養素 1586kcal たんぱく質 58.9g 塩分 9.1g 提供食数(1日平均) 143食</p>